

大震災出版対策本部では、昨年10月、震災孤児・遺児に図書カードをプレゼントするプロジェクトを立ち上げました。対象は、福島・宮城・岩手被災3県の孤児・遺児約1,560名です。プロジェクトはまだ活動を継続中ですが、以下に1月20日時点までの中間報告をさせていただきます。

### 「震災孤児・遺児クリスマスプレゼント」活動経緯

#### ■スタート：

2011年10月4～6日の被災3県との意見交換の過程で、「震災孤児・遺児への図書支援」が新たな課題として浮上した。同12日の運営・広報委員会において、未就学児・小学生・中学生・高校生を対象に「クリスマスプレゼント」として図書カードを贈る事業を進めることが決まった。

#### ■政府へのアプローチ：

11月に入って10日、広報委員会メンバーが宮城県現地対策本部長・郡和子代議士と面談、協力を依頼。クリスマスに間に合わせるため、11月末日までに配布のスキームをつくれるよう要請した。翌週14日には、同じく広報委員会のメンバーが、福島県現地対策本部長・吉田泉代議士と面談し、協力を依頼。

#### ■図書カードのセット組：

11月22日、日本図書普及の担当者と打ち合わせ。クリスマスバージョンの台紙2000部作製を依頼。12月5日の運営・広報委員会で、未就学・小学生に5,000円分、中学生・高校生に10,000円分を贈ることを決定。7日に2種類のセット組を図書普及に依頼。

#### ■宮城県から岩手県・福島県へ：

12月第1週。クリスマスまでの日程が迫ってきて、5日、ようやく宮城県に関してはプレゼントを渡せる目途がついた旨、郡代議士秘書官から報告が入る。また福島・岩手の現地対策本部長に郡本部長から声をかけてあるので、出版対策本部からも確認の連絡をしてほしいとのこと。

同5日、岩手県教育委員会に協力を要請。「岩手に関しては、県教育委員会が責任をもって孤児・遺児にプレゼントを渡します」との快諾を得る。同日、福島県の吉田本部長に連絡し、プロジェクトの現状を報告。同日夜、吉田本部長より電話で、「県の保健福祉部児童家庭課に連絡してほしい。プレゼント配布の方法について対応する」との連絡を得た。

#### ■各県それぞれの受け入れ態勢：

①福島県→7日、県児童家庭課へメールで本プロジェクトの趣旨説明文書とプレゼント申し込み用紙を送付。「孤児へは児童相談所を通じて」「遺児へは市町村を通じて」対象児への情報提供をする。申込書は対象児サイドから直接、対策本部に送るので、それに応じてプレゼントを対象児に郵送していただきたい、とのこと。申込書の郵送・FAX受け付け

窓口は出版クラブとした。

②宮城県→13日、仙台市以外の23市町村ごとに対象児童数（合計で709名）、送付先、受け取り責任者名などの詳細データが届いた。追って15日には、仙台市の詳細データが届いた（対象児童105名）。

③岩手県→県教育委員会宛てに一括して発送する。合計584名分（未就学児84名、小学生205名、中学生145名、高校生150名）。

■プレゼントの発送作業：

①岩手県→14日、県教育委員会教育企画室宛てに、5,000円セット294、10,000円セット300を「セキュリティ便」で出荷した（児童数の増加に備えて各5セット追加。残ったカードは、後日、対策本部に返却）。15日、受け取り確認。

②宮城県→16日、仙台市以外の23市町村の各担当者宛てに総計で709名分を出荷。続いて19日、仙台市子供未来局子供育成部総務課宛てに105名分のカードと添え書きを一括して出荷した。21日、受け取った旨とお礼の電話あり。

③福島県→年末から年初にかけて、徐々に保護者からの申し込みが届きつつあり、1週間ごとに取りまとめて発送作業を続けている。対象児童は10市町村にわたり孤児21名・遺児141名で、合計162名。福島では原発避難の特殊な事情があり、他の孤児・遺児への施策でも時間がかかっているのが現状なので、申し込みの受け付けを当面、2月末まで延長した。また図書カードを収納する台紙も、クリスマスバージョンから平常時用に切り替えた。